

2022年度 第1回 高大連携フォーラム 開催報告

「高大接続からみた探究活動」をテーマに以下のとおり開催した。

日 時：2022年10月13日（木）18：00～19：30

会 場：オンライン（ZOOM）

申込者数：106名

参加者数：75名

会員大学	18 大学 35 名
会員大学外	23 名
高等学校	7 名
その他	10 名
合計	75 名

プログラム：

18:00	開会挨拶 篠原 厚 氏（大阪青山大学 学長 / 高大連携部会 部会長）
18:05	講演 田中 悠樹 氏（株式会社 Study Valley 代表取締役 CEO）
19:25	質疑応答
19:55	閉会挨拶 秋田 成司 氏（大阪公立大学 副学長 / 高大連携部会推進委員会 委員長）

〈司会進行〉稲田 貢 氏（関西大学 システム理工学部教授 / 高大連携部会推進委員会 副委員長）

アンケート：別紙のとおり

演 題：高大連携は大学負担？

～高校における探究学習の事例から考える、サステイナブルな高大連携の具体的な方向性～
（概要）

株式会社 Study Valley が取り組んでいる探究学習のプラットフォームについて説明があり、宮崎県での事例が紹介された。つぎに、高校現場での探究学習の課題の整理がなされ、探究学習における高大連携では、不均衡状態に陥りがちなので、大学側は係る工数や効果を定量化し、連携するメリットを最大化にする施策が必要だとの話があった。

Key takeaways

本日お持ち帰りいただきたい点

- 高校の探究の現状理解**
 - 現状を理解していただき、理想とのギャップについて把握していただく
 - 理想系に近づけるための方向性についてご理解いただく
- 高大連携の事例と解くべき負について**
 - 高大連携が抱える課題（Giver/Taker）を理解いただき、持続可能な探究における高大接続についてご理解いただく
- 高大連携における利益享受について**
 - 双方利益なく持続的な取り組みは不可能
 - 両者のギャップを埋める方法についての示唆を持ち帰っていただき、各大学・各高校の取り組みについてもう一度議論いただく

StudyValley © 2021 Study Valley Inc. 3



田中 悠樹氏

主な質疑応答：

<Q> 生徒の探究学習に取り組むモチベーションづくりに何か工夫がされているのか。

<A> デジタル上で社会経験できるような生徒の興味関心をひくコンテンツ（選択枝）を多様に揃え、社会との繋がりを感じてもらおうようにしている。

<Q> 大学が探究学習に関わるのに、入試以外にもメリットがあるのではないか。

<A> 企業と高校が連携する探究学習の監修を大学が担うことで、企業との接点ができ、産学連携など大学の研究に繋がることが考えられる。

<Q> 高校の探究学習は、大学での探究学習（PBL）などで成長に繋がると感じている。高校での探究学習を進展させるために、大学でできることは何か？

<A> 大学でのPBL成果報告会などを高校生へ公開することで、高校生は、探究学習の連続性を感じることができ、大学の学びなど大学に興味をもつ契機となる。

<Q> 企業が探究学習に関わるメリットは何か。

<A> 参加企業のメリットは多くないが、CSR以外に、企業の認知度の向上が期待でき、高校生から新たな気づきを得られ、企業が活性化する。

<Q> 好事例となる探究学習を展開している高校があれば教えてほしい。

<A> 沖縄県立宜野湾高等学校が地元企業やメディアを巻き込んで素晴らしい探究学習をされている。一方で、公立高校は、教員の定期的な異動により、連続した指導が難しくなるケースがあるので、教員が変わっても同様の指導を再現できるようにしていかなければならない。

◆2022年度 第1回 高大連携フォーラム 参加者アンケート結果◆

参加者75名 回答件数46件 回答率61.3%

<p>1. 回答者について</p> <table border="1"> <caption>回答者の所属</caption> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学職員</td> <td>22</td> <td>47.8%</td> </tr> <tr> <td>大学教員</td> <td>17</td> <td>37.0%</td> </tr> <tr> <td>高等学校教員</td> <td>5</td> <td>10.9%</td> </tr> <tr> <td>高等学校職員</td> <td>1</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>その他:学生</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	所属	人数	割合	大学職員	22	47.8%	大学教員	17	37.0%	高等学校教員	5	10.9%	高等学校職員	1	2.2%	その他	1	2.2%	その他:学生	-	-	<p>2. 本フォーラムを知ったきっかけ (複数回答可)</p> <table border="1"> <caption>本フォーラムを知ったきっかけ</caption> <thead> <tr> <th>きっかけ</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学コンソーシアム大阪からの案内</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>所属先からの案内</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>Tulipメーリングリスト</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>チラシ</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>大学コンソーシアム大阪HP (SNS含む)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>SENSEIイベントポータル</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他:知人より</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	きっかけ	人数	大学コンソーシアム大阪からの案内	20	所属先からの案内	13	Tulipメーリングリスト	8	チラシ	6	大学コンソーシアム大阪HP (SNS含む)	4	SENSEIイベントポータル	3	その他	2	その他:知人より	-
所属	人数	割合																																						
大学職員	22	47.8%																																						
大学教員	17	37.0%																																						
高等学校教員	5	10.9%																																						
高等学校職員	1	2.2%																																						
その他	1	2.2%																																						
その他:学生	-	-																																						
きっかけ	人数																																							
大学コンソーシアム大阪からの案内	20																																							
所属先からの案内	13																																							
Tulipメーリングリスト	8																																							
チラシ	6																																							
大学コンソーシアム大阪HP (SNS含む)	4																																							
SENSEIイベントポータル	3																																							
その他	2																																							
その他:知人より	-																																							
<p>3. 本フォーラムに参加しようと思った理由 (複数回答可)</p> <table border="1"> <caption>本フォーラムに参加しようと思った理由</caption> <thead> <tr> <th>理由</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テーマに関心があったから</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>最新情報を知りたかったら</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>登壇者または講演内容に関心があったから</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>オンラインでの開催だったから</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>上司からの指示または業務上の必要性があったから</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	理由	人数	テーマに関心があったから	44	最新情報を知りたかったら	10	登壇者または講演内容に関心があったから	7	オンラインでの開催だったから	6	上司からの指示または業務上の必要性があったから	4	<p>4. 講演について</p> <table border="1"> <caption>講演の有用性</caption> <thead> <tr> <th>有用性</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても参考になった</td> <td>20</td> <td>43.5%</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>24</td> <td>52.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり参考にならなかった</td> <td>2</td> <td>4.3%</td> </tr> </tbody> </table>	有用性	人数	割合	とても参考になった	20	43.5%	参考になった	24	52.2%	あまり参考にならなかった	2	4.3%															
理由	人数																																							
テーマに関心があったから	44																																							
最新情報を知りたかったら	10																																							
登壇者または講演内容に関心があったから	7																																							
オンラインでの開催だったから	6																																							
上司からの指示または業務上の必要性があったから	4																																							
有用性	人数	割合																																						
とても参考になった	20	43.5%																																						
参考になった	24	52.2%																																						
あまり参考にならなかった	2	4.3%																																						
<p>5. 本フォーラム全体について</p> <table border="1"> <caption>本フォーラム全体の満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参考になった</td> <td>27</td> <td>58.7%</td> </tr> <tr> <td>とても参考になった</td> <td>18</td> <td>39.1%</td> </tr> <tr> <td>あまり参考にならなかった</td> <td>1</td> <td>2.2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	人数	割合	参考になった	27	58.7%	とても参考になった	18	39.1%	あまり参考にならなかった	1	2.2%	<p>6. 本フォーラムの満足度について</p> <table border="1"> <caption>本フォーラムの満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概ね満足</td> <td>27</td> <td>58.7%</td> </tr> <tr> <td>満足</td> <td>18</td> <td>39.1%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>1</td> <td>2.2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	人数	割合	概ね満足	27	58.7%	満足	18	39.1%	不満	1	2.2%															
満足度	人数	割合																																						
参考になった	27	58.7%																																						
とても参考になった	18	39.1%																																						
あまり参考にならなかった	1	2.2%																																						
満足度	人数	割合																																						
概ね満足	27	58.7%																																						
満足	18	39.1%																																						
不満	1	2.2%																																						

7. 6.にて回答した理由

<満足とした理由>

- ・ 探究活動の状況を確認できたから。
- ・ たくさんの情報がいただけた。
- ・ 授業への展開を考える参考になった。
- ・ 関心のあるテーマであったから。
- ・ 総合的な探究の時間が導入され、興味のあるテーマだった。
- ・ 探究活動について、全体像を今まで以上に理解することができました。
- ・ 大変役に立つ考え方を聞き取れました。
- ・ 高大接続・高大連携において探究活動にどうかかわるかが、非常に重要になっている中、実例を交えてご説明いただき、大変参考になったため。
- ・ 今ちょうど本学が悩んでいるところについて、様々な視点からの考え方を教えていただけたから。

<概ね満足とした理由>

- ・ もう少し深い内容を知りたかったから。
- ・ 高校の探究活動について新しい知見を得ることができたからです。
- ・ 高大接続について、様々な立場、観点からの質疑応答を聞くことができた。
- ・ 興味深い話が聞けた。参考になることを得た。
- ・ 大変興味深いお話でした。どう活かせば、というところが自分でまだ見つけられていないので、「概ね」とさせていただきます。
- ・ わかりやすかった。
- ・ 高大接続についてまったくイメージが持てていなかったため、深く理解するまではいかなかったかもしれないが、多少は入口に立てたのかと思う。
- ・ 実践するには時間がかかると感じました。
- ・ 探究についての取り組みが事例を通して知れたため。
- ・ 私にとってはすべてが学びです。
- ・ Time Tactというコンテンツを知ることができた。

<不満とした理由>

- ・ 今回の演題について講演されているとは思いませんでした。具体事例のようなものを示されているようで、なぜ示されたのか、それが我々大学にとってどのようにメリットがあるのか、甚だ不明でした。真新しさはあるのかもしれませんが、残念ながら小手先のみの印象しか受けませんでした。

8. 講演に関する意見や感想

- ・ 「連携」に活かしていく具体案について、自分なりに考えていきたいと思いました。
- ・ 入学後の学生を見ていると、探究学習の経験の有無、もしくはその質の高低に若干の差が生まれているような気がする中、大変参考になるお話ありがとうございました。
- ・ 高校教員として探究の授業に活用する方法が少し分かったと感じました。次年度の授業計画を早速考えたいと思います。
- ・ 「ひなた探究」を事例に説明いただき、よく理解できました。また、質問に関してもご回答をいただき、ありがとうございました。
- ・ 事例を交えて分かりやすくお話いただきありがとうございました。
- ・ 非常に分かりやすかったです。的確な質問への回答など田中様の熱意といいますかそういったものを感じました。ありがとうございました。イスラエルのお話、自分自身はどうだったか…考えさせられました。
- ・ 具体的にご説明いただきありがとうございました。継続して活動するためには、winwinの関係が非常に重要で、このことをはっきりと申し合わせたうえで進めないといけないのですが、なかなか動き出すことができない現状がありました。また、テーマ設定がとにかく手間がかかり一番苦労する中、地元企業とコラボすることは大変有効であることがわかりました。一部の高校の先生からは、探究活動を入試に絡めたいという声がありましたが、このことは全国共通の本音ということがわかりましたので、本学の入試設計に反映させたいと思います。
- ・ Study Valleyさんのような企業さんが入ってくださることで、高校、大学にとってメリットになるのだと思いますが、中・小規模大学の私たちにってはなかなかハードルの高いところ。本学も高大連携センターがありますが、〇〇ができる先生がいるということだけではうまく連携ができないですし、大学の先生が必ずしも高校との連携が得意なわけでもなく、そのリソースについて高校のニーズ、または大学のニーズをうまく把握しマッチングできるコーディネーターが必要だと思います。そういう人材がいることで、大学側としては教授の通常の授業以外のエクストラ部分の負担が軽減できるし、高校のご担当の先生の負担も減る。ただ、その立ち位置は重要であっても、なかなか業務として理解されないところもあり、非常に悩ましい状況です。生徒の成長、学生の成長も鑑みながらの連携、また裏の目標として、大学の認知度向上、志願者増など、ありとあらゆることを考えながらやらなければならない、非常に負担増です。大学としての高大連携の在り方、センターとしての立ち位置など、お考えがあれば教えて欲しいです。
- ・ 地域や産業界と大学が連携して探究学習を行ってられる事例などが参考になりました。
- ・ 本大学では、現在、高大連携を推進しており、その参考にするために、実際に行っている高大連携の具体的な事例をもっとお話していただけるとありがたかった。
- ・ Time Tactの活用事例をご教示いただきありがとうございました。

9. フォーラムに関する意見や感想

- ・ 勉強になりました。
- ・ 時間の配分が気になりました。
- ・ 本学の現状と照らし合わせながらお話を聞いていると、あっという間に時間が経過し、有意義なセミナーに参加させていただきました。
- ・ よい講演会を誠にありがとうございました。
- ・ 活発な質疑応答もあり大変良かったと思います。
- ・ 大変有意義でとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 今回、フォーラムに参加させていただいたことで、今後はフォーラム等があれば案内などがメール等で届くのでしょうか。
- ・ 大学での探究の成果を高校生へ発信することを検討しようと思いました。

10. 次回のフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ・ 実際に各大学と各高校で高大連携として取り組まれている活動、入試の制度など。
- ・ 大学、高校、企業から見た具体的な取り組み例を伺いたいです。
- ・ 高大連携に関する様々な取り組み事例が知れると幸いです。
- ・ 産官学連携などの教育連携と入試選考方法について